

31H 岡山 美穂 33H 中村 優斗
34H 高野 卓也 35H 湯口 僚太 36H 川崎 水羽

■課題

能登にある大学・大学施設の不足が原因で、若者が大学進学時に能登を離れ、戻ってこなくなることによる能登の人口の流出。

■解決策

高校生が主導となって能登里山里海保全と GIAHS を関連させた「郷土料理の伝承」に関する活動を行い、その活動の様子を SNS などにアップする。→興味を持った大学と提携して能登の大学・大学施設の増加につなげる。

■現状①

1. GIAHS（世界農業遺産）について
GIAHS の認知度は低い。

農業遺産の認知度（全国）

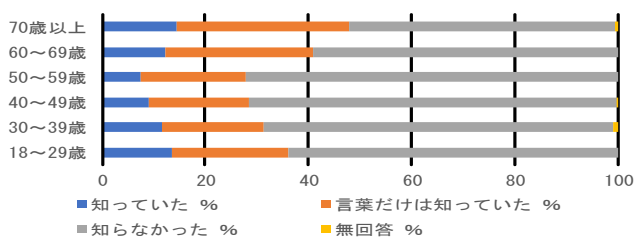


図1 農業遺産の認知度（全国）



図2 はざ干し

<https://www.bing.com/images/blob?bcid=53qJ3iEKyEBw>



図3 大野製炭工場の炭

<https://www.nacsj.or.jp/partner/2020/03/19609/>

2 能登にある教育施設について

能登にある大学施設はこの下の図のように1か所しかない。

（金沢大学理工学域能登海洋水産センター）



図4 能登の大学施設



図5 金沢大学理工学域能登海洋水産センター

https://bio.w3.kanazawa-u.ac.jp/bio/noto_kaiyo.html

■具体的内容①



図4 能登の白浜千枚田

<https://tabiyomi.yomiuri-ryokou.co.jp/article/000215.html>

① 高校生主導の
里山里海保全活動



②活動内容を SNS 等で発信



③能登地域に興味を
持つ教育機関を誘発

★「能登キャンパス」の実現

目的 ○里山里海保全活動に参加し、興味を持った学生が「能登キャンパス」をもつ大学に入学すること

内容 ○大学関係者が GIAHS および里山里海保全活動に対する関心や知識を持ち、「能登キャンパス」を設立する

■現状②

3. 郷土料理について
若者に十分に伝承されていない

食文化の伝承

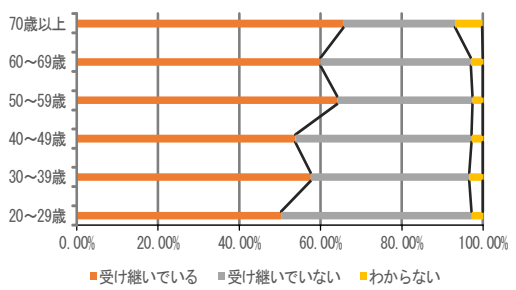


図5 食文化の伝承

https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/k_ryouri/search_menu/menu/aimaze-ishikawa.html



図6 あいまぜ

■具体的内容②

能登里山里海保全と GIAHS を関連させた活動例

【郷土料理の伝承】

目的 ○若者が主体となり郷土料理を伝承、発信

○地域のつながりで食文化を支える（GIAHS と関連）

内容 ①郷土料理（例 あいまぜ）の歴史や作り方を知る

②能登野菜（例 神子原くわい）を使って郷土料理を作る

★農産物の付加価値が上がる

より多くの地域住民が GIAHS および里山里海保全活動に対する関心や興味を持つことで、GIAHS に認定されている能登の里山里海でとれた農産物に付加価値が加わる。

→現住民の流出の抑制と能登キャンパスの実現の後押しへ。

→農業や水産業の活性化による新たな職場の創出へ。

■参考文献

1) 農業遺産に関する世論調査（令和3年6月調査）概略版（gov-online.go.jp）

2) CiNii 論文 - 世界農業遺産の認定の効果と課題-宮城県大崎市を事例として

3) <4D6963726F736F667420576F7264202D20313130312E87562E904882C6904888E782CC8CBB8FF331335F9360939D97BF979D5F2E646F63>（chiba.lg.jp）